

平和の祈り

東京反核医師の会ニュース vol.109



平和の祈り



東京反核医師の会ニュース Vol.109 目次

- 声明「米国の臨界前核実験に抗議する」 2
- 会員の広場 ピースドクター vol.28 3
「反核」はすべての社会運動とつながっている 森本 玄始
- 行事のご案内 5
原水禁世界大会 in 長崎 (8/7~9)
全国反核医師のつどい in 京都 (9/14~15)
- 事務局だより かわら版 6
▶新ホームページ開設のお知らせ
▶7月13~14日(土、日)
「被爆者の声をうけつぐ映画祭2019」を開催

◆2019年会費納入・寄付金のお願い◆

恐れ入りますが 7月30日まで に今年2019年分の年会費5,000円をご納入ください。

また、2018年以前の会費が未入の方は、併せてお早めにご送金ください。

カンパ・寄付金も随時募集しております。

皆様のご協力をお願いいたします。

<表紙写真について>

「平和の祈りキッズゲルニカ in ながさき」(2017年8月9日、爆心地公園にて撮影)。
パブロ・ピカソの「ゲルニカ」にならい、同作品と同じサイズのキャンバスに、世界の子どもたちが平和を願うメッセージを描く国際プロジェクト。誌面の都合モノクロだが、現物は非常に色彩豊かで、夢と願いに溢れた作品が並ぶ。2019年も開催予定とのこと。

★2019年5月30日、米国トランプ政権下で行われた臨界前核実験に抗議する声明を下記のとおり発出し、駐日米国大使および関係各所へ送付しました。

米国の臨界前核実験に抗議する

2019年5月24日、米国核研究機関のローレンス・リバモア国立研究所が、プルトニウムを用いた臨界前核実験を同年2月に実施したことを発表した。トランプ政権下では、2017年12月に同様の実験が行われている。今回の核実験は、世界的に高まっている核廃絶へ向かう動きに反する行為であり、われわれ東京反核医師の会は、米国政府に対して断固として抗議する。

同研究所は実験の目的を、貯蔵されている核弾頭の安全性を向上させるためとしているが、米国は2019年1月には小型核開発の製造を開始、2月には、INF全廃条約の破棄をロシアに通告しており、今回の実験が、核兵器を使用できる態勢づくりの一環なのは明白である。実験が行われたのは米朝首脳会談の直前であり、米国は北朝鮮に非核化を迫りながら、自らは核兵器の性能向上を進めていたことになる。国際的な信頼関係が大きく損なわれるのは必至だ。また、核爆発を伴わないということは、実験の安全性を担保するものではない。今回の実験でも、用いられた核物質封じ込め容器から少量のプルトニウムが漏出し、付近の汚染も確認されている。

核兵器は一度でも使用すれば、全世界に長期的な影響が及ぶものであり、「使える核」は存在しない。世界最大の核保有国である米国が核軍備の増強を強めることは、国際的な緊張を高め、軍拡競争をもたらすものであり、容認できない。東京反核医師の会は、今回の米国の臨界前核実験に強く抗議するとともに、米国が核軍拡の方針を転換し、縮減・廃絶に向けて積極的な役割を果たすことを求める。

2019年5月30日
核兵器廃絶・核戦争阻止 東京医師・歯科医師・医学者の会
(東京反核医師の会)
代表委員 向山 新、矢野 正明、片倉 和彦



「反核」はすべての社会運動とつながっている

立川ふれあい相互病院 森本 玄始

森本 玄始 先生は東京反核医師の会の世話人を長年務め、東京保険医協会理事、北多摩支部副支部長をとしても活躍しています。

今回は森本先生のルーツから社会運動に対する想い、そして現在の国際社会に対する考えをうかがいました。

◆日本と中国、2つの国籍の間で

1948年5月、中国人の父と日本人の母のもとに生まれた。子どもの頃は外国籍だったが、幸い良い友だちや先生に恵まれたおかげで、ひどいいじめに遭ったりすることもなく、平和に育つことができた。

高校までは通名として母方の「森本」姓を名乗っていたが、大学からは本名である「陳玄始」を名乗るようになった。

日本国籍を取得したのは、日本人女性と結婚したのがきっかけ。それは自分自身のルーツの半分でもある日本に永住することを決意した時でもある。

◆社会問題に関心を持ったきっかけは

小さいころは世間知らずのお坊ちゃん、いわゆる「ノンポリ」だった。鳥取大学の学生寮に入ったのがきっかけで、先輩や後輩から教えられて、様々な社会問題に関心を持つようになり、自治会の勉強会に出たりもした。ちょうど70年代安保の時代で、全学連の学生がヘルメットを被って構内を闊歩していた頃である。

卒業後は、奨学生として松江生協病院で研修を受けた。広島に近くだったこともあり、被爆者の方を診察することも少なくなかった、被爆体験についてお話を伺う機会もあった。

その後、縁があって、東京の立川相互病

院にたどりついて現在に至る。

これまで日本の公教育を受け、日本の社会制度の恩恵を受けてここまで来た。その分だけ、自分が貢献すべきことがあると思っている。東京保険医協会の理事を務めているのもそうした思いからである。反核医師の会の活動についても、ただ核兵器に反対するというだけではなく、他のすべての社会活動と地続きだと考えている。

その原点は、医師の「病を治す、命を大切にす」という使命である。

◆今日の世界情勢について思うこと

原水爆が開発されて以降、列国の間で核のせめぎあいが続き、核兵器の保有量も増大していった。今現在も一触即発の緊張状態にある。

核兵器を備えることによって核兵器の使用を抑えることができる、という「核抑止論」は間違っていると思う。人間のすることは確実ではない。何かのきっかけで間違っただけで核のスイッチを押してしまえば、その被害は特定の地域だけではなく、世界規模に取り返しのつかない影響が及ぶことになるのだ。

日本はこれからどうしていけばよいのかを考える。日本の国内だけが良ければいいのではなく、世界の情勢を把握した上で、平和な国際関係のために動くことが必要だと思う。

日本は米国の核の傘の下、核廃絶に対して消極的な態度をとり続けているが、二度



原水爆禁止2012年世界大会 in 広島にて
(左から2番目)

の原爆の被害を経験してきた国として、二度と同じことを繰り返さないために、果たすべき役割はもっと大きいはずだ。

◆これからの抱負

現在は立川相互病院でリハビリの外来を担当しているが、非常勤になったこともあり、仕事の量は以前の半分程度になった。その分、保険医協会や反核医師の会にも積極的に顔を出したいと思う。

皆の先頭に立つというわけにはいかないが、倒れない限りは皆さんと一緒に学び、より良い社会の実現のために歩んでいきたい。

～行事のご案内～

原水爆禁止2019年世界大会 in 長崎

広島と長崎への原爆投下から、74年の夏を迎えようとしています。

この8月、両被爆地で「核兵器のない平和で公正な世界のために」をテーマに原水爆禁止2019年世界大会が開催されます。

今回の大会は、2020年、被爆75年の節目の年を前にして、「生きているうちに核兵器のない世界の実現を」という被爆者の願いをかなえる上で、これまでも増して大きな意義を持っています。

東京反核医師の会は長崎の大会に参加し、映画を観ながら、戦争や核兵器の恐ろしさ、平和をテーマに話し合う分科会「映像のひろば」の運営に携わります。ホームページ上で当日の様様をお知らせしていく予定です。

皆様のご参加をお待ちしています。



<長崎大会のスケジュール>

- 8/7 (水)
15:30-18:00 開会総会
- 8/8 (木)
9:30-15:00 分科会/動く分科会
13:00-16:00 フォーラム
- 8/9 (金)
10:30-13:00 閉会総会(ナガサキデー集会)
14:00-15:00 ナガサキデー宣伝・署名活動

第30回 反核医師のつどい in 京都

2019年9月14 (土) ~15 (日) 日

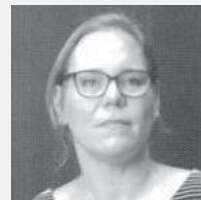
【会場】メルパルク京都

記念すべき第30回目の「反核医師のつどい」が、京都で開催されます。

今回は、特別シンポジウム「金融機関の核兵器製造企業への融資を止めさせよう」として、PAX 核軍縮プログラムマネージャーでICANの中心メンバー

であるスージー・スナイダーさん(左写真)をお招きし "Don't Bank on the Bomb" (核兵器にお金を貸すな) プロジェクトについて、また、目加田説子・中央大学総合政策学部教授(右写真)にクラスター爆弾廃絶における金融機関への働きかけとその意義について、それぞれ講演いただきます。

その他、「核兵器禁止条約とトランプの核政策」(講師:黒澤満・大阪女学院大学教授)、「原発の法的問題と日本の司法制度の課題(仮)」(講師:樋口英明・元福井地裁裁判長)、「北東アジア非核化のために私たちにできること」(講師:中村桂子・長崎大学"RECNA"准教授)など、タイムリーな企画・講演が目白押しです。ぜひご参加ください。(※詳細については、本紙同封の案内チラシを参照ください)



事務局だより・かわら版

◎新ホームページ開設のおしらせ

東京反核医師の会の活動などをネット上でお知らせする媒体として、公式ブログを設けていますが、より多くの方に当会の活動を知っていただくために、現在、新しい公式ホームページの立ち上げに向けて、準備作業に入っています。

当会の成り立ちや活動内容などを写真付きでご紹介するほか、ご入会の申し込みもウェブ上でできるようになります。

パソコン・スマホ両方に対応、色覚異常の方でも見られるように画面の色も変更可能など、様々な方に見ていただける環境を完備しています。

新ホームページの開設は、今年の夏ごろを予定しています。ご期待ください。



新ホームページ（作成中）

★7/13～14 被爆者の声をうけつぐ映画祭2019のご案内★

映像や映画での被爆体験の継承を目的とした「被爆者の声をうけつぐ映画祭2019」が、7月13、14日（土、日）の2日間にわたって、武蔵大学江古田キャンパスで開催されます。6月5日には、実行委員会のメンバーであるアニメーターの有原誠治さんと、橋口晴彦さんが東京反核医師の会を来局し、ご案内をいただきました（写真）。

今回上映される作品は、「広島長崎における原子爆弾の影響（長崎編）」や「アトミックカフェ」などの記録映像から、「黒い雨」「青葉学園物語」などの劇映画、「ふたつの故郷を生きる」「原発ゼロの未来を 福島を忘れない」のような福島原発事故を取り上げた作品、少し変わった所ではアニメーションとドキュメンタリーを組み合わせた「西から登った太陽」など、バリエーション豊かなラインナップです。

「声が世界を動かした～ノーモア・ヒバクシ



映画祭の宣伝に来局した有原誠治さん（右）、橋口晴彦さん（左）

「記憶遺産の継承センター設立に向けて」は、武蔵大学の学生が関係者のお話を伺って作り上げた力作です。

どの作品からでも参加可能です。ぜひご参加ください。

※詳細については、本号に同封のチラシを参照ください。

東京反核医師の会ニュース
第109号

発行日 2019年6月26日
発行人 東京反核医師の会
(核兵器廃絶・核戦争防止
東京医師・歯科医師・医学者の会)

連絡先

〒160-0023

新宿区西新宿3-2-7

KDX新宿ビル4F

(東京保険医協会気付)

TEL 03-5339-3601

FAX 03-5339-3449

★公式ブログ★

<http://tokyohankaku.seesaa.net/>



©Tokyo Physicians for Elimination
of Nuclear Weapons (1988-2019)

※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。